

### 第3回 観光交流拠点づくり推進委員会 会議録

日時 平成26年7月17日（木） 19時～20時50分

場所 羽咋市役所 2階 203会議室

#### 出席者

委員：林 一夫（羽咋市商工会副会長）  
川井 康子（観光ボランティアガイドこんちま羽咋副会長）  
清水 篤郎（羽咋市観光協会宿泊委員会委員長）  
栗木 政明（JAはくい のと里山塾課長）  
中田 昌宏（羽咋青年会議所事務局長）  
松村 克行：羽咋市町会長連合会理事  
金田 純一（千里浜財産区管理委員会会長）  
淡路 幸子（能越ケーブルネット営業部）  
浅野 由美子（公募委員）  
西東 恒信（公募委員）  
オブザーバー：藤本 康司（石川県土木部道路建設課担当課長）  
浅村 精一（石川県中能登土木総合事務所次長）  
アドバイザー：濱 博一（石川県地域づくり協会専任コーディネータ）  
市側出席者：備後 克則（企画財政課長）  
川口 哲治（商工観光課長）  
松田 義人（商工観光課係長）  
コンサルタント：㈱日本海コンサルタント3人  
会議傍聴者：なし

#### 審議事項

##### 1. 開会

##### 2. 委員長あいさつ

（略）

（オブザーバーから、「道の駅」第二ステージについて」資料に基づき説明あり）

（略）

### 3 先進地視察研修の振り返り（岐阜県郡上市）

（事務局説明（略：別添会議資料参照））

#### 【アドバイザー】

（先進地視察研修における診断表について総評をいただく）

- ・運営側は責任をもって、設計のコントロールすることが必要。
- ・このプロジェクトのプロセスとコントロールを誰がするのかによって、運営主体のやりやすさが決まってしまう。
- ・ゆ華を視察してきたが、ブランディングが成功している施設であると感じた。そこに、一体的に道の駅を整備するとゆ華が壊れる。道の駅のイメージとすると、客層的には、ユーフォリアの方が近いのではないか。道の駅のグレードをどうするのか、どのようなお客さんに来てほしいのか、羽咋という町をどんな町にしたいのかをしっかりと決めることが重要。普通のドライブインを作ってしまうはいけない。
- ・能登は、しっとりしているイメージがあるが、羽咋は、比較的からっとしているイメージ（砂浜）がある。しかも、能登のいいところを失っていない、実に微妙なところにある。
- ・ブランドとして確立するには、能登の地域性の中でも、上質な伝統性というか、能登の上質なイメージを狙っていった方がいい。
- ・ゆ華のように、しっかりブランディング性を持っている施設は貴重である。
- ・開放的な砂浜や夕日（島がない水平線に沈む夕日を眺める景観は希少）、松林などは外せないイメージではないか。

#### 【委員長】

- ・資料としては、視察研修を基にした各委員からの提案ということを明記してほしい。

### 4 千里浜インター周辺整備の方向性

#### （1）千里浜インター観光交流拠点施設の配置（レイアウト）方針について

#### 【事務局】

- ・ゆ華との一体的な道の駅の整備を進めたいとの考えに基づき、その北側にある大規模な遊休地を活用し、整備するという方向性について示しているが、各委員さんからの意見をいただきたい。

#### 【委員長】

- ・現在の調整池の隣で整備していくことにご意見はありませんか。

**【アドバイザー】**

・調整池と検討地の位置関係には、何か理由があるのでしょうか。海側に調整池があるのはなぜか。すごくもったいない。ここが一等地である。

**【委員】**

・なぎさ住宅団地とビーチバレーができる場所として整備したと聞いている。

**【事務局】**

・北側にある団地を宅地造成するにあたり、その雨水をこの調整池で一度受けて、海に流すということで整備されたものである。現在すでに機能しているもので、道の駅の直接の調整池として整備しようとする箇所ではない。ただし、広い面積があり、またインターを降りてすぐのものであるため、この部分については、広場や駐車場などに活用できないものかと考えている。

(2) 羽咋市の観光交流拠点施設整備に係るコンセプトについて

**【アドバイザー】**

・「世界に誇れる千里浜の魅力を世界に発信する」「市民と来訪者に愛され」とあるのは、皆さんに共通する考え方だと思うが、具体的に明確にしていかなければいけない。

・砂浜や夕日、潮風、松林などが千里浜のシンボリックなものとして出てきている。

・宇宙人との共存というのは、ユニークで個人的には好きだが、その中でも、「健康や環境に対して全く負担をかけない最先端の農業技術」とあるが、とても重要な部分である。JAはくいさんも含めて、積極的に進められている。自然環境を大切にするというイメージに矛盾はしないのではないかな。

・羽咋が持っている、ある種の「明るさ」みたいなものを大切にしたい。

**【委員】**

・市としては、この候補地に整備をしたいということなのではないでしょうか。

**【事務局】**

・まず、ゆ華と一体的・面的に整備をしたいとの思いがある。

・高松を例にとると、かほく市内に降りているかどうかとの視点で検討している。千里なぎさドライブウェイには、統計上、年間90万人もの来訪者が訪れている。そのお客さんがインターの下をくぐって羽咋市内の方へ向かっているか。その90万人のさらに何割かの方々を誘導し、適切な情報提供をし、市内の施設へ向かわせたいという視点で検討し

ている。

- ・その後の展開として、物語や羽咋の魅力などを知っていただき、ロコミなどにより、のと里山海道を降りてまでも、そこに立ち寄りたいたいと思わせることにより、さらに効果を高めていければと考えている。

- ・道の駅本来の機能として、トイレと駐車場、情報発信機能があるが、いかに情報発信を適切にできるかということに重きを置き、さらに地域連携機能として、羽咋の魅力を発信できればよいのではないかと考えている。

- ・平成22年に金沢大学の学生と一緒に行った観光動向調査によると、「千里浜に来ているお客さんは『羽咋に来ている』とは意識しておらず、また、羽咋の他の施設に立ち寄るという意味が希薄であった。また、羽咋市には適切に情報を与える施設がない。よって、羽咋市には、千里浜インター付近で、いかにすぐそこまで来ているお客さんに対し、羽咋の魅力に関する情報を与えられるかを検討すべきであり、情報発信機能を持った道の駅の整備が必要である。」との意見をいただいたことを受け、検討した候補地である。

- ・夕日が見れるレストランなどは、千里浜レストハウスにある機能なので、候補地ではレストハウスとは別のコンセプト・物語を設定するかが重要である。

#### 【委員】

- ・コンセプト案に出てくる砂浜や夕日などが表立って出ていたので、お示しいただいている候補地とは、ちょっと違うかなと思ったので確認した。

#### 【委員】

- ・郡上の先生から聞いた言葉の中で印象的だったのが、「3割が地元の方が利用していることがよい」であった。観光者だけの道の駅にならないようにとの視点が重要である。

- ・市民とも交流できる場も必要であると思う。

- ・市民の方は、ずっとここに住んでいるので、当たり前のような景色と思っているでしょうが、なぎさドライブウェイの夕日が見れる景色は素晴らしいものである。

- ・のと里山海道を通っていて、今浜にあるホテルが目に入ると羽咋に帰ってきた、素敵なリゾート地に来たとの思いが起こる。そこで、低層の建物ではなく、夕日が見れるような高層な建物や展望台があれば、道からもアピールできるのではないかと。

- ・地元の人も、観光客の方も、羽咋でしか見れない場所があるということも重要。

- ・これから作るので、皆さんの思いが1つになり、最高のものができればと思う。

#### 【委員】

- ・場所の選定について、夕日が眺められるような位置に作ればいい。

- ・自家用車がほとんどだと思うが、観光で来た方々が、千里浜を通れない日が年間3分の1程度あると思うが、せっかく来てさびしい思いをさせたくない。千里浜は羽咋市民の財

産であるので、通っていただきたいし、見ていただきたい。海側に道の駅をつくり、レストハウスへ行けるようにし、その後、里山海道に乗っていけたり、道の駅に回遊できるようにすればいいと思った。進入禁止で通れない場合に、海と里山海道の間に車が行き来できる道路を代替として整備すればいい。

#### 【委員】

- ・簡単にのと里山海道へのアクセスできる道路を整備することはできるのか。
- ・高さの関係で、市が提案する場所はいい場所ではあるが、夕日が見ることができない。高い建物を建てれば別であるが。

#### 【委員】

- ・青年会議所でディスカッションセミナーを開催し、道の駅について議論を交わす時間を取った。コンセプトやイメージだけではなく、具体的にどのようにすればいいかを考えた。
- ・中心的なテーマになるのは、「健康」
- ・羽咋市にいいところがたくさんあるが、「健康」にリンクすることが多い。自然栽培や豊かな自然環境、温泉なども活用し、「健康」をテーマにしたことができる。また、モンベルも羽咋市に工場を建設した。モンベルは、ロッククライミングができる店舗を各地で作っているの、運動もできるような施設が可能ではないか。
- ・羽咋市には、体験型施設が少ない。旅行会社の方々の意見を聞いていると、集客するツアーを企画するのが難しい。こういったなかで、道の駅を体験型施設にすることで、旅行会社としても企画が組みやすくなる。
- ・「健康」をいうワードそのものには、マイナスイメージも含んでいるので、普通でいることが健康なことなので、健康というテーマを強調すると今、健康ではないというイメージもついてきてしまう。癒しなどキャッチコピーは検討を要する。
- ・道の駅とゆ華が結び付けにくいという意見もあったが、健康がテーマであれば、ゆ華のグレードの高いイメージともリンクするのではないかと考える。
- ・お金のある方が、健康のためにお金を使うこともある。

#### 【委員】

- ・道の駅は、他所にない、行きたくなるような、来たくなるような場所を作らないといけない。夕日は、里山海道などどの位置からでも見ることができる。確かに、夕日を見ることができるスポットがあるのはいいが、情報発信の機能として、「こんな素晴らしい夕日が見れる」という発信の仕方もある。「今日は曇っていて見れないが、また今度来よう」と思ってもらうことが大事。道の駅は、本来そうあるべきではないかと考える。
- ・夕日を見せる場と考えるよりも、砂を触って体験できるコーナーを作るといったような方向で考えないといけない。

### 【委員】

・道の駅の話が議会で話されていることをケーブルテレビで拝見した。気になったのが、政治的に考えるとうまくいかないのかなと感じた。レストハウスやユーフォリア、ゆ華について、あっちもこっちも大事という考え方をすると、道の駅構想はダメになることもあり得るのではないかと思う。道の駅に集中して、成功させるように考えていかなければならない。

・はくい昔話というコーナーで、昔、千里浜は砂地のため作物が育たず、ハマグミを植えて松林を植えたというようなことが紹介されていた。そのようなストーリーもおもしろい。

・場所については、ついでに立ち寄れるという位置である。里山海道や千里浜なぎさドライブウェイからもたくさん来られるが、「ついでに立ち寄れる」というのは、いい面もあれば悪い面もある。お客様を選べないことになる。わざわざ奥まできていただけるお客さんに対して仕掛けるのと、皆さんを対象にするのでは違う。

・コンセプトであるが、自然栽培とはとむぎを伝えるという担当であるが、人と宇宙人が共存できる町。自然栽培を伝えるときに、「安全ですよ安心ですよ」だから、今食べている物が子どもたちにすると、発がん性があるなどと言うと、消費者は聞かなかったことにする。そのような情報を消費者は求めていない。健康の話があったが、プラス的健康とマイナス的健康という点では、治す食材が求められいたが、今は、健康な人ほど健康にいいものを好む。伝えたいことがあったら、ストレートに伝えるのではダメだと思う。例えば、東京のテレビ局の人がおもしろいなと飛びついてくれるようなコンセプトを打ち出せれば、広告費も浮く。自然栽培は体にいいと伝えたいが、それを最初から伝わらなくてもいいわけで、羽咋の千里浜という、車が通れる砂浜があって、普通はそんな砂浜があるわけがなくて、昔、UFOの発着場だった…というようなストーリーを打ち出せれば、羽咋に興味を持ってもらったり、自然栽培に興味を持ってもらったりすればいい。そうすれば、羽咋について調べ始める。羽咋にある素晴らしいものを一部置くだけでいいのではないか。そこがとっかかりで、羽咋はこんな町なんだと思わせれば、羽咋の町中を散策してくれる。という発想で、絞って考えていけばいい。

### 【委員】

・道の駅のエリアですが、現在里山海道が無料になって、朝夕ものすごい渋滞が起きている。そんな中に、道の駅を作ると、非常に入りにくい出にくい道の駅になると思われる。このような場所では賛成できない。もし、千里浜にこだわるのであれば、高松の道の駅のように、里山海道沿いに建設するのが望ましい。レストハウスの近くで回遊できるようになればいい。

・コンセプトの中に、砂像というのが製作できる人も少ないし、夕日を見れないこともある。ということで、人と宇宙が共存できるというコンセプトは魅力がある。観光客を町中に呼ぶことにもなるということで、コスモアイル羽咋の所に道の駅を作るのが望ましいと考え

る。

- ・千里浜にこだわるとがっかり観光地の代名詞になるのではと心配である。
- ・千里浜再生プロジェクトで、千里浜を回復させようとしているが、そう簡単には再生できない。365日のうち、150日は走れない。がっかりさせることになるかもしれない。
- ・千里浜の町民としては、これ以上混雑させないようにしてほしい。

#### 【委員】

- ・高い建物という話があったが、高い部分があれば、あの上からどんなものが見れるんだろかという思いが出てくる。内灘の白帆の公園に15mくらいの高さから見ることができる。高い建物があれば、1年の150日が通れないが、通れなくても能登の荒々しい海が見れる。
- ・今の候補地になっている箇所を有効に活用した方がよいと考える。健康をテーマという話もあったが、里山海道の海側には、遊歩道や自転車道なども活用することができる。総合的な使い方をどう考えるかという視点が必要だと思う。

#### 【委員】

- ・視察を通じて感じたのは、場所と景色。自然や緑の多さで、清々しい気持ちになった。自然や景色がいい所がいいなと思い、現実的にできるかどうかは別に、P6のような連絡道を描いた。高松は里山海道から直接入ることができるということで寄りやすいが、地元の方が利用しにくいと考えた。一般道からも、里山海道からも入りやすい道の駅であればいいのではないかと考えた。
- ・市から示された候補地の景色について考えた際に、千里浜の景色を感じることはできない。しかし、高い建物があれば、目線も変わっていいのではないかとも思った。海の色も毎日いろいろな色になる場所を楽しむことができるので、何回でも来てもらうことができるのではないかと考えた。変わる景色を行くたびに楽しんでもらうことも売りになる。
- ・羽咋の売りは、千里浜だと思う。この千里浜の景色を取り入れたいと考えた。

#### 【委員長】

- ・コンセプトについては、この場で1つをとすることは難しいと思うので、役所の方で私たちの意見を参考に検討してもらいたい。

#### 【事務局】

- ・位置とコンセプトを切り離して考えるのではなく、両方が一致して成り立つものである。なかなか100%ここが最適ですねという場所を選定するのは難しかった。
- ・また、高松を例に、のと里山海道から直接乗り入れできればいいということではあるが、一方で現実的な視点で考えなければいけないと考えている。
- ・のと里山海道の海側は、保安林であるため、開発がしにくいという点は考慮しなければ

ならない。

- ・いろいろな制約があるなかで、どこが一番いいのかということで、市として考えた。
- ・1回目のときにもお伝えしたが、1点目は交通量の関係、2点目は観光客も地元の方も使いやすいということ、3点目は周辺の施設や環境への配慮という点で、道の駅1か所を整備しようとするのではなく、道の駅を中心に、砂浜や松林、その他の施設も含めて、千里浜インター周辺を金沢側からの入口にしたいと考えている。羽咋に入った瞬間に、羽咋の魅力を伝えられる玄関口にしたい。
- ・集客という意味で、ゆ華と切り離れた方がいいという指摘も受けたが、ゆ華が保有する温泉を有効に活用したいと考え、範囲として入れた。
- ・皆さんに、第一候補として示させていただいたので、これを踏まえて皆さんに議論いただきたいと考えている。時間をかけても、コンセプトを含めて決めていきたい。

#### 【オブザーバー】

- ・高松の話がでていますが、高松は元々サービスエリアだったもの。自動車専用道路なので、地元の方が利用できないということで、リニューアルして下の道路を舗装し駐車できるようにした。上りと下りが別々なので、千里浜を見るには、下をくぐって反対側に行くことになっている。
- ・道の駅ということであれば、交通量が多いという点や分かりやすさが必要。
- ・シンボリックな建物を整備するというのは、1つの手法としては考えられる。
- ・国道249号や415号を通るお客さんも、立ち寄ることができるという視点も大切。

#### 【オブザーバー】

- ・ネガティブな発想になるが、千里浜なぎさドライブウェイの通行規制が年々増えているのは事実。1年で150日通行規制がかかる。今浜一柳瀬間はその内50日は通れた。
- ・石川県では、3分の1が雨か雪が降る。夕日をあまりに強調すると、見れないことが多いので、がっかりさせることになる。UF0の発着場的な、無理なこじつけかもしれないが、新たな発見があるよというようなネーミング的にいいものがあれば、マイナスのものをプラスに転嫁できればいいと思う。
- ・一定量の交通量がないといけない。しかし、現在、朝夕が混雑しているということである。来た人が駐車場に入れなかったということになると、イメージダウンにつながる。そのための、交通の誘導の仕方も考えないといけない。

#### 【アドバイザー】

- ・1つずつ丁寧に検討しなければならない。簡単に答えが出るようなものだと、出来てしまってもたいしたことがないものになる。愛着もわかないし、魅力的なものにならない。検討の過程で、立場を超えて、法制度のことや道路交通のことなどの課題に対し、いろいろ



ろな立場の方が挑戦してきたものが成功する。

- ・食彩市場は年間 90 万人のうち、地元が 2・3 割が地元の利用。100%他からの訪問客ということになると民間のドライブインと同じになってしまう。地元の方から、常に利用される施設であれば、経営も安定する。ある程度、地元の人に利用され、訪問客にも満足してもらえるものは何なのかということを考えていかなければならない。

- ・立場から「この場所はいかがなものか」という指摘があったが、出入りが難しいという理由であったが、朝夕のラッシュ時と、道の駅の利用時間とは、時間のズレがある。時間帯別の交通量調査の結果があれば、その数値を地元の人にお示しすることで、不安を払しょくしてもえるよう丁寧に説明する努力が必要。

- ・経営的な話になるが、前の道にどれだけ交通量があるかは、ものすごい重要なこと。交通量がなくても、それだけの魅力がある経営ができればいいが、運営主体が相当な力量を持っていないと難しい。現実問題として、それだけ力強い経営体を作っていくのかという問題があるので、最初からハードルの高い立地で建設するのは難しいのではないかと思う。

- ・よく商店街などの問題としても取り上げられるが、近隣の施設であるレストハウスとユーフォリアの客が捕られるのではないかと心配は出るかもしれないが、集客層が少しずつズレているはず。人との縁の問題だが、1日10人と名刺交換しても、年間3650人、そうなると、1.2億人いる日本人全員と名刺交換するには3年以上必要である。同じ日本人であっても、絶対出会えない人はいる。道の駅に来る人と、ユーフォリアに来る人のご縁は違うので、10把ひとからげにして、ここに道の駅ができれば、他の所が潰れるのではないかという心配は必要ない。新潟の寺泊では魚屋を5件並べて相乗効果で誘客に成功している。そういう類似の施設が集中しているのは、集客上有利に働く。仕掛けが必要。動線を考える。保安林のところは松林である。歩けば気持ちのいい場所ではないか。のと里山海道の下をくぐって海側へ行ける道があれば見に行く。そういう工夫ができればいい。

- ・高くすればするほど、施設にお金がかかる。経営を圧迫することになる。道の駅などが平場になっている理由がある。2階以上にお客さんは来ないことが多い。1階と2階以上の建物の集客力は、全然違う。2階以上になると苦勞すると思う。展望台ということになるとお金を生まない施設。ロケーション的にはいいものができるかもしれないが、集客的には不利に働く。

- ・我々が今議論しなければならないのは、いろいろなことが絡み合うので、いろいろな意見を出していただいて、多面的な議論をすることが大切である。しかし、必ずどこかで終息をかけていけない問題があるが、みんなが一緒になって解決していかなければならない。同じ船に乗っている。

- ・我々にとって、この道の駅を作るに当たって、何を最も大切にしていかなければならないのかということが決まらないと、場所も、どんなふうにしていかなければならないかも決められない。

・私にとっての千里浜あるいは羽咋にとって、何が大事なんだろうということを各自考えていただきたい。次回にその考え方を持ち寄っていただきたい。

**【事務局】**

- ・次回も、場所の問題やコンセプトや機能も併せて、議論していきたいと考えている。
- ・時間帯の交通量についても、すぐに手配してお示ししたい。
- ・ある情報がほしいということがあれば、申し出ていただければ市で手配して取れるものであればお示しする。

**5 その他**

次回開催日：平成 26 年 8 月 6 日（水）19：00～